



戦争をさせない
1000人委員会
Anti-War Committee of 1000


信州ニュース


戦争をさせない1000人委員会・信州 2014年11月27日 第15号

〒380-0838 長野市県町 532-3 県労働会館

電話 026 (234) 2116 FAX 026 (234) 0641 E-mail vi4h-kt@asahi-net.or.jp

HP <http://sensouwasasenaishinshu.jimdo.com/>

 https://twitter.com/1000_shinshu

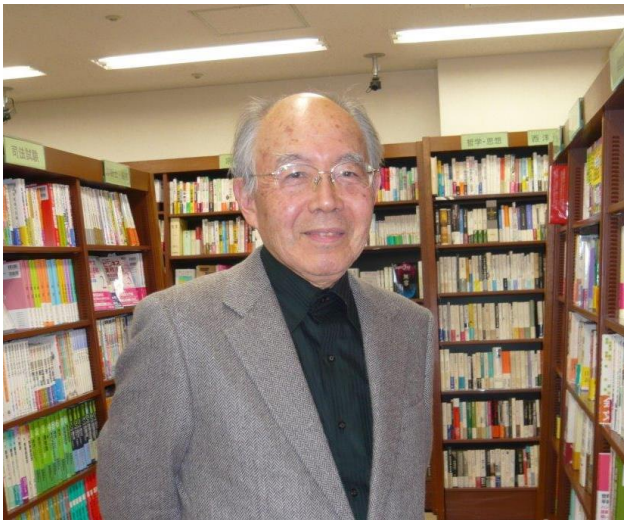
 <https://www.facebook.com/sensousasenaishinshu>

【寄稿】 中馬清福さんを悼む

戦争をさせない1000人委員会・信州呼びかけ人／フリーライター

金井 奈津子

戦争をさせない1000人委員会・信州の呼びかけ人で、フリーライターの金井奈津子さんに、11月1日に逝去された中馬清福さん（信濃毎日新聞前主筆）の追悼文を寄稿していただきました。金井さんは、『松本平タウン情報』に2008年11月から2014年3月まで108回にわたり中馬清福さんとの対談「憲法をお茶の間に」を連載された方です。金井さんは追悼文で、中馬さんを「生涯の師匠」と呼び、中馬さんの遺志を受け継いで活動していく熱い思いを綴られています。（事務局記）



「イデオロギーはひと晩でひっくり返る。でも金井さんの不戦や9条堅持、平和への思いは、子どもを守りたいという母親の根源的な願い。そういうものは、何があっても変わらないから」。

信濃毎日新聞社主筆を退かれるまで、5年半続いた拙稿「憲法をお茶の間に 中馬清福さんに聞く」。どこの馬の骨ともわからないフリーランスの申し出を、なぜ受けてくれたのかと問うた時の答えだ。

長い政治記者時代に、ひと晩でひっくり返る

様をきっと何度も見てきたのだろう。多くは語らなかったが、煮え湯を飲まされたことも1度や2度ではなかったはずだ。にもかかわらず、少年のような空気感を湛え、真実を見抜く眼は、鋭く、且つ澄んでいた。理不尽なものには「刺し違える覚悟」で臨まれ、小さきもの、弱きものには礼節を持って寄り添っておられた。

「戦争をさせない1000人委員会・信州」のアピール文を見て頂いた。

「内容もスタイルもいい出来です。呼びかけ人はこの通りの行動をと祈るばかりです」。集会の記事には「第二社会面に写真入りで大きく載ったのはいいことだ。だが肝心のアピールの中身が1字もなく、かつ、どんな過程でアピール文が書かれたかがない。残念だ」というメールも頂いた。

人前で話すのが超苦手な不肖の弟子が、出発集会で短いスピーチとアピール文を朗読すると話すと「聴衆を実りの稲穂と思う。ただし、中央あたりにいる人の中から1人だけ、『うん、これは聞いてくれそう』という人を選び、最初はその1人に語る。だから最初は急いで語らない。

落語の枕風にやる」とアドバイスしてくださった。なんとか無事に済んだと報告すると、『『案ずるより』とよく言うが、事前に案じて案じてこそ、産むは易し。これが正解。よくやった』と喜んでくださった。年間何十回にも及んだご自身の講演会も、「案じて案じて」臨まれていたのだと、この時、初めて気づいた。だからこそ、立ち見が出るほどの入場者になり、語る言葉は胸の奥まで響くものだったのだ。

「主筆を退いたら、故郷（鹿児島）で少しのんびりするよ」とおっしゃっていたのに、入院になってしまわれたので、桜島の写真集をお届けした。とても喜ばれ「毎日眺めている」と。「でもね、元気になったら一番行きたいのは長野なんですよ」とも。224回も続いた大型コラム「考」の読者への感謝を、「別稿で書けなかったのが心残り」とは何度もおっしゃっていた。9年余り。その心は、いつも信州の人々と共にあった。

近くの国々との信頼関係と相互依存関係を強く、深くすることこそが、安全保障の要。自国の軍事力、そして「軍事力そのもの」への盲信で失敗した過去への反省と、そこから冷静に学ぶ「外交力による平和」の重要性をことあるご

【ちゅうま・きよふく】2014年11月1日死去、79歳。鹿児島市生まれ。信濃毎日新聞社論説顧問（前主筆）。朝日新聞社論説主幹、代表取締役専務・編集担当を経て05年2月～14年3月まで信濃毎日新聞社主筆。08～12年まで国際新聞編集者協会（IPI）日本代表理事。

とに語られた。しかし持論を押し付けるようなことは1度もなかった。自分の頭で考え、考え抜いて、己の血肉とすること。それが、連載108回分に息づいている教えだ。

「あの戦争で、鹿児島が死なずに済んだのは、沖縄の方々のお陰だと思っている」と感謝を忘れず、心を寄せ続けた沖縄。県知事選、那覇市長選の結果が出た途端、沖縄メディアの友人からメールが来た。「中馬さんに、沖縄県民は良識を示しましたと報告してください。歴史が変わります！」と。

来月14日の総選挙。中馬さんの教えを生かし、沖縄に学び、良識を示して中馬さんに報告できるのか。暗黒へと転がりかけている歴史を、変えることができるのか。

生涯の師匠へ、最初の恩返しにしたいと思っている。

県弁護士会公開シンポジウム「戦争と平和—集団的自衛権のもたらすもの」

いま、ともに考えましょう

戦争と平和 集団的自衛権のもたらすもの

安倍内閣は、本年7月1日、集団的自衛権の行使を容認する閣議決定を行いました。これは憲法の基本理念である恒久平和主義に反しており、時の内閣の解釈によって行うというやり方は立憲主義にも反するものです。この閣議決定を受け、来年の通常国会に多くの法律改正案が上程されると予想されます。改めて集団的自衛権とは何か、これを容認することは何を意味するのかを明らかにし、憲法をめぐる危機的状況と憲法の意義を市民のみならずとご一緒に考えていきたいと思います。

日時 平成26年 **12月14日** 日
開場 午後1時 **開演** 午後1時30分～4時30分

会場 長野県松本勤労者福祉センター「大会議室」
(長野県松本市中央4丁目7番26号 TEL.0263-35-6286)
●申し込みは不要です。直接会場にお越しください。

入場
無料

2人の講師による 基調講演

日本の安全保障政策の立案や海外での実践活動から考える「戦争と平和」について



●プロフィール

1946年生まれ。1970年防衛庁入省、防衛省防衛研究所長、内閣官房副長官補などを歴任。第1次安倍内閣では、「安保法制」の事務局に参加。退官後、沖縄海兵隊の抑止力に関する疑問を提起。「憲法解釈の見直し」に批判的立場で発言を続けており、国民安保法制懇のメンバー。著書に「抑止力を問う」「検証-官邸のイラク戦争」「亡国の安保政策」等多数

【講師】 柳澤 協二氏



●プロフィール

1957年生まれ。東京外国語大学教授。内戦初期のシエラレオネを皮切りにアフリカ3国で10年間、開発援助に従事。東チモールで国連PKO暫定行政府の県知事。アフガニスタンにおける武装解除を担当する日本政府特別代表。国民安保法制懇のメンバー。著書に「伊勢崎賢治の平和構築ゼミ」「国際貢献のウソ」「紛争歴の外交論—ニッポンの出口戦略」等多数

【講師】 伊勢崎 賢治氏

第2部／講師2人と田下佳代・県弁護士会会長の対談